

大阪市で初の取り組み

民間寄付で公園をリニューアル

リバー産業

不動産開発・販売を手がけるリバー産業（本店・大阪市中央区）は21日、リニューアルした大阪市天王寺区の「五条小公園」の除幕式を行った。地域住民の要望を聞いたうえで同社が工事し、天王寺区に公園を寄贈した。民間寄付により、地域社会と自治体が一体となって公園をリニューアルするのは、大阪市では初めてという。

今回、公園外周の北西側と南東側の外壁の計133平方メートルをリニューアル工事し、記念に桜とシャリンバイも植樹された。総

事業費は約1200万円。

リバー産業は来年10月、公園の隣接地に分譲マンション「夕陽ヶ丘リバーガーデン」（総戸数106戸）を開発する。それにあわせて、公園の外壁が経年劣化していたこともあり、地域住民の要望を取り入れ、天王寺区と共同でプロジェクトに取り組んだ。

また、地域住民から募集した「五条小公園絵画コンクール」の表彰式も実施。応募総数59点の中から最優秀賞と優秀賞各1点、入選賞10点の計12点が受賞

した。受賞した作品12点は、公園南東側の外壁に飾られた。

同マンションの敷地内には「光の画家モネ」の庭をモチーフにした、スイレンやヤナギを配した庭園もつくり、公園の北西側外壁にもモネの絵画を飾るなど、明るく一体感のある空間を演出する予定。

除幕式で水谷翔太・天王寺区長は「大阪市の財政状況が厳しいなか、民間企業のご支援によりこのような素晴らしい公園にさせていただき大変感謝している」と述べ、リバー産業の河啓一社長は「費用をあまりかけず官民が知恵を出しながら、文教地区にふさわしい美しい街並み



除幕式に出席したリバー産業の河社長（右端）と絵画コンクールで受賞した子供ら＝21日、大阪市天王寺区

を整備することができた」と強調した。

同社は、緑豊かな庭園を整備

するなど、環境に配慮した分譲マンションの建設に力を入れて

いる。